



TITLE:

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所 "北浜" で2012年に産卵したアカウミガメ

AUTHOR(S):

久保田, 信; 田名瀬, 英明

CITATION:

久保田, 信 ...[et al]. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所 "北浜" で2012年に産卵したアカウミガメ. 南紀生物 2013, 55(1): 23-24

ISSUE DATE:

2013-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188344>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所 “北浜”で2012年に産卵したアカウミガメ

久保田 信*・田名瀬 英朋**

Shin KUBOTA and Hidetomo TANASE: Egg-laying of loggerhead turtle on “Kitahama” beach
of the Seto Marine Laboratory, Kyoto University, Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan in 2012

著者らは白浜半島の先端に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所の北側に位置する長さ約400 mの通称“北浜”で、最近9年間に死亡漂着したウミガメ類の記録をまとめた。この浜には3種のウミガメ類が漂着する（久保田・田名瀬, 2012）。また、田名瀬の観察によって、古くから少数のアカウミガメ *Caretta caretta* LINNAEUS が上陸・産卵している浜（県下でそのような記録がある67浜の内の一つ）としても知られている（宮脇, 1998, 2004）。しかし、過去10年間では2003年の1件の産卵しか観察されていない（久保田, 2006）。今回、2012年の夏季に“北浜”の2箇所で卵や子ガメを発見したので記録する。なお、2012年におけるウミガメ類の上陸跡は全く確認されなかった。

2012年2件の産卵記録

(1) 一つは8月28日に北浜の船着き場の西側で、悪天候により砂浜の上部が削られて1卵が少し頭を出していたのが偶然発見され、少し掘り進めると17卵が現れた（図1）。それらは新鮮なものだったのですぐ埋め戻したが、埋め方が浅かったのか、全て他の動物に食べられてしまった。その下に何個の卵が残っているのか、約2か月後の10月23日に掘ってみたところ、全部で20卵が発見された。その内の18卵は孵化しないまま殻の中でどろどろに腐っていた。1卵には孵化時とは異なる小さな穴が開き、中は空で殻は乾燥していた。残りの空になった1卵の殻もすっかり乾燥していたが、破れ具合が大きく、孵化した可能性がある。以上の観察から、この産卵場所からは子ガメの孵化はほとんど起こらなかったと推察される。この場所での卵の総数が37個と少ないが、9月下旬から10月上旬にかけての数度の台風の高波のため砂の移動がかなりあったので、その影響のためであろう。また“北浜”では波打ち際から一番遠い所（浜の端に設けられた石垣のすぐ手前）に産卵さ

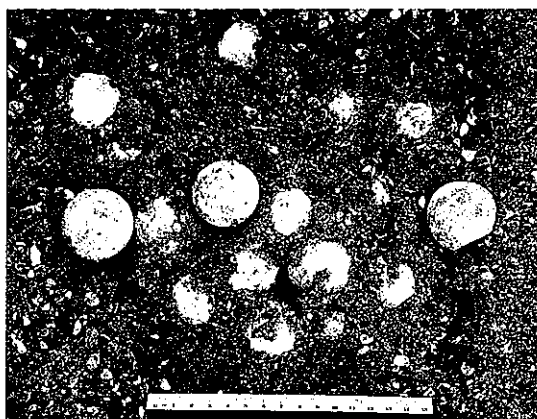


図1 瀬戸臨海実験所“北浜”で荒天により砂中から露出したアカウミガメの卵（2012年8月25日に表層の砂を少し掘り出した状態）

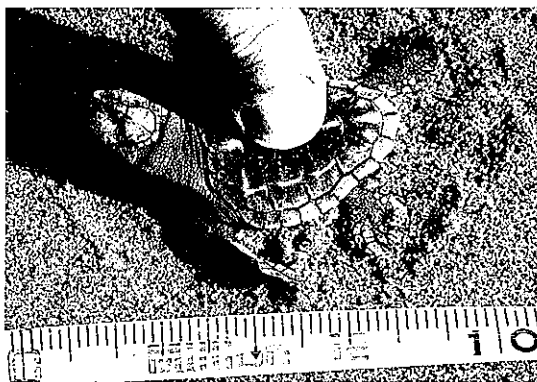


図2 瀬戸臨海実験所“北浜”で2012年9月25日に産卵巣から脱出して海に向かう途中のアカウミガメの子ガメ

れていたものの、台風で波をかぶり海水が卵のある所まで浸透した可能性が強く、多くの卵で孵化につながらなかったであろう。

* 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

** 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町676



図3 瀬戸臨海実験所“北浜”で産卵巣から脱出したアカウミガメの足跡 (2012年9月27日)

(2) もう一つは9月25日9時45分に北浜の船着き場の東側でアカウミガメの子ガメ1個体が海へ向かって移動しているのに偶然遭遇し (図2), 周囲を探索すると浜の端に設けられた石垣のすぐ手前 (波打ち際から一番遠い所) に1つの産卵巣があり, そこから子ガメが脱出した跡が見つかった。2個体の脱出跡はいずれもほぼまっすぐ海へ向かっていた (図3)。その後, 毎日のように少なくとも一か月間, 子ガメの脱出が継続して起こるのか調査した結果, ただ1回, 9月27日 (子ガメ発見の2日後) に2個体が産卵巣から海へほぼまっすぐ向かった足跡と卵の殻が砂浜表面に掘り出されその跡が

残っていた。これ以後のそこからの脱出はなかった。卵の孵化率を調べるため約1ヶ月後の10月23日にそこを掘ってみたが, 何も発見できなかった。

筆者らは, “北浜”で毎日のようにこの20年以上色々な生物調査を実施しているが, アカウミガメの上陸跡に遭遇することは少ない (宮脇, 1998, 2004; 久保田, 2006)。最近ではただ一度だけ (2003年8月下旬) 産卵が偶然発見された記録があるが, この時も子ガメの脱出は全くあるいはほとんどなかったことを確認した (久保田, 2006)。以上のことから過去23年間では“北浜”でのアカウミガメの産卵と子ガメの確認は大変稀であるといえる。

なお, 1989-2003年の期間中の“北浜”での最多の産卵回数は上記と同様に2件で, 1994年に田名瀬により観察されており, この時, 産卵に至らない上陸のみの場合が他に1件だけ報告されている (宮脇, 1998, 2004)。また, “北浜”への上陸だけの最多回数だと, 1992年の4頭の記録となる (宮脇, 1998)。

謝 辞

2012年8月28日の臨海実習時に卵の発見をして下さった京都大学の実習参加学生に深謝致します。

引 用 文 献

- 久保田 信, 2006: “室の海から 白浜で出逢った生き物たち”, 233 pp. 紀伊民報社, 和歌山県.
- ・田名瀬英朋, 2012: 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所北浜に最近9年間 (2003年—2012年) に漂着したウミガメ (爬虫類), 南紀生物, 54 (1), 17-18.
- 宮脇逸朗, 1998: 和歌山県下でのアンケート調査結果, 紀伊半島ウミガメ情報交換会十周年記念誌, 28-36.
- , 2004: 2003年における和歌山県下でのアカウミガメの上陸産卵状況 (概要), 紀伊半島ウミガメニュース, 34, 4-5.